

故笹沼政男氏に

従五位瑞宝双光章

去る6月12日にお亡くなりになられた元馬頭町立馬頭中学校長笹沼政男氏（小砂）は、生前の功績に対して従五位瑞宝双光章に叙せられました。在りし日のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



子どもの料理コンクール

武茂小児童など優秀賞を受賞

子どもたちが「食」に対する理解と関心を深める一助となるよう、烏山地区食生活改善推進団体連絡協議会主催による「子ども料理コンクール」が9月5日、烏山健康福祉センターで行われました。今年度のテーマは「自分でつくろう朝食」です。コンクールに出場した児童たちは決められた時間内で、自分で考えた朝ごはんメニューに腕を奮っていました。

那珂川町では次の児童たちが受賞しました。（敬称略）
優秀賞

「ツナのスクランブルエッグとマリネサラダ」

高野豪太（武茂小6年）
高野里菜（武茂小6年）

入賞

「ウインナーオムレツとトマトのカッパサラダ」

尾賀 想（武茂小4年）
五十嵐里菜（武茂小4年）

入賞

「ミックスベジタブル入りポテトのピーマン詰め」

大金千春（馬頭西小4年）
佐藤美咲（薬利小5年）

小川地区土地改良区

合併予備契約書調印式

小川地区土地改良区の運営基盤を強化しようと9月14日、小川公民館で土地改良区合併予備契約書調印式が開催されました。

この調印式は小川第一、小川、小川第二、小川芳井、小川北部、小川薬利、小川町吉田、権津川用水の8土地改良区が合併するもので、今後、それぞれの土地改良区で臨時総会を開催し、合併の承認を得て、来年4月、小川土地改良区新設合併を目指します。

佐藤勉合併推進協議会長は「今後は新土地改良区をよりしっかりとした組織に成長させ、地域の農業振興に貢献したい」とあいさつ。それぞれの土地改良区理事長が合併予備契約書に署名、捺印しました。

小川地区土地改良区は総面積760ha、組合員数813人となります。



百歳を迎えた笹沼信義さんに

祝い金と花束を贈呈

9月30日に100歳を迎えた笹沼信義さん（小砂）を28日に、川崎町長が訪問。総理大臣と県知事からの祝詞、町からは祝い金と花束が贈られました。

笹沼さんは酒もタバコもたしなまず、早寝早起きの規則正しい生活で、自分で食べる野菜は自分で作っているそうです。また、好き嫌いなく何でも食べ、医者にかかったことがないそうです。

長生きの秘訣をお伺いしたところ、「子ども時代、小砂から大山田小学校に2年間通った。朝は暗いうちに家を出ないと学校に間に合わない。通うのが大変だったけど、結果的に体力づくりになった」と昔を振り返り、語っていました。

和舟実習 馬頭高校水産科

9月25日、富山橋付近の那珂川で馬頭高校水産科2年生13名が、総合実習の水に親しむ教育の一環として、鮎釣り舟である和舟の操縦法の体験をしました。

地元の南部漁協理事の武石廣二さん（富山）を講師に迎え、舟の構造の説明や舟竿一本での操縦の仕方などの指導を受けました。

カヌーでの漕艇は経験済みの生徒たちですが、残暑厳しい日差しの中、^か権とは勝手が違い、思うように進まない舟竿での操作に悪戦苦闘しながらも、伝統的な和舟の操縦法を頑張つて習得していました。



小川中で巡回舞踊公演

9月21日、小川中学校で巡回舞踊公演が開催されました。

次代を担う青少年に対し、優れた舞踊公演を直接鑑賞する機会を提供し、芸術に触れる喜びを体験させ、芸術文化活動への参加機運を醸成するため、日本舞踊、現代舞踊、クラシックバレエの3つの舞踊が公演されました。

公演者の舞踊のほか、講師の指導のもと各演目において生徒たちも参加しました。日本舞踊では小道具を使った踊り、現代舞踊では「重さ」を表現する踊り、クラシックバレエでは基本動作である足を高く上げたり、回転しながらの歩行などを披露しました。



縄文時代の丸木舟体験

なす風土記の丘資料館では、展示会「川でつながる縄文人―交流と交易から見た那須―」のオープニングイベントとして、縄文時代の乗り物の丸木舟を再現しました。

9月22日、那珂川沿いの大桶運動公園（那須烏山市）の池で、参加者30名が見守る中、進水式が行われました。桑野正光館長から「なすこだい丸」と命名が披露された丸木舟は、モミの木を材料とし、地元の大工佐原一彦さん（小川）と佐原昭司さん（浄法寺）が三カ月がかりで製作しました。

参加者は、交代で丸木舟に乗船し、縄文時代の那珂川の交易などに思いを馳せながら、貴重な体験をしました。



闘病記を自費出版

「生きて輝いて〜修羅の道10年」

元小川中学校教諭の藤田カツ子さん（小砂）は今年の春、自らのがん闘病記「生きて輝いて〜修羅の道10年」を自費出版しました。

藤田さんは平成7年、健診で乳がんであることを知り、手術を受けました。その後、職場復帰するか悩んでいましたが、温かく迎えてくれた子どもたちに救われ、通院しながらも英語教諭として教壇に立ち続け、56歳で退職。発病から手術、闘病生活、職場での葛藤など10年間の足跡をまとめました。

出版について、「今までお世話になった方々への感謝の気持ちと、つらい時には決してあきらめないで一所懸命生きてほしいとのメッセージを伝えたい」と話していました。

